



学生食堂春風景 : 満開の桜がパノラマで見ることのできる本学食堂は、市民の方の憩いの場ともなっています。

学生生活のいま

経済学部現代経済学科1年

原田 明香さん (山口県鴻城高等学校出身)

木村 礼佳さん (広島県立御調高等学校出身)

今春、徳山大学に入学した2人です。原田さんは入学式で新入生代表の宣誓をしました。入学直後のEQトレーニングの授業で知り合い、今は学内をよく一緒に行動しています。これから1年、広報活動にも協力してもらうこととなりました。

希望に溢れる1年のはじまりです。



育成すべき 学生像

学長 岡野啓介

徳山大学は創設以来、「個性の伸長を本旨とする『知・徳・体』一体の教育を行う」という教育理念を掲げ、総合的な『人間力』を備えた人材の育成に努めてきました。『知』や『体』に代表される諸能力 ability に対し、種々の社会的局面に遭遇して、それらの諸能力をどの方向に生かし、社会全体にとって良い結果・成果をあげることができるか、その要因となる能力が「徳」であるといえます。この「徳」を従来のな virtue という意味合いに留まらず、現代社会が抱える諸問題に則して competency (※コンピテンシー) と捉えるところから始まったのが、本学の「EQ教育」です。EQは Emotional Quotient (こころの知能指数) の略で、IQ (Intelligence Quotient: 知能指数) に対比される概念です。自己を正しく認知し制御する能力、他者を思いやり長所・短所を理解して協力体制を作り上げるリーダーシップ、そしてそれを支えるコミュニケーション力などをさします。社会のなかで自立した人間として生きていくための総合的な「人間力」の育成のため、徳山大学では“EQを意識的な育成の対象と捕らえ” オリエンテーションから卒業までの一貫した新しい教育プログラムとして、提供してきました。

※コンピテンシーは、自分自身や仲間の持つ能力を上手く運用し、グループ全体として高い成果をあげる能力で、現代社会が求める最も重要な能力ともいわれています。



他大学には類例のない特徴的な教育内容を誇るものですが、問題もありました。『EQ教育』はまだ新しい分野で、学術的に裏打ちされた確固としたものがないのです。特にその教育の効果を測定するツールがはっきりとしていま

せん。本学の教職員が努力奮闘し、学外の専門家の協力を得ながら、やつとのことで作りに来たのが現在のプログラムです。しかし、今年度のEQトレーニングには嬉しい誤算がありました。このトレーニング合宿にリーダーとして参加した先輩学生たちの頑張り、その学生をリードした若手教員の情熱、そしてなによりも合宿全般を通してのリーダー学生たち自身の成長ぶりの中に、我々のEQ教育の目標とすべきものが見えてきたような気がしているのです。

学生諸君にはさらに「地域に根差した感覚を持ちながら常にグローバルな視点を持つ」姿勢を備えてほしいと思っています。このために必要不可欠となるのがICT活用能力、高い情報処理技術を持って情報収集を行い問題解決に資することができる能力です。本学では昨年度末から、キャンパスのICTインフラの整備を徹底的に行ってきました。学生一人一台のモバイルパソコン環境の実現をめざし、各所に無線LANのアクセスポイントが配備されたキャンパスではい

たるところからインターネット接続が可能となりました。教室ではパソコンを利用して実施される授業が徐々に増えていきます。また、講義のe-learning化を促進する学習管理システム(LMS)の導入と、学生のキャンパスライフとキャリア形成を支援するためのデータベースシステム(CASK: キャスク)の構築も、着々と進んでいます。CASKにはEQ診断結果、学習や資格取得の履歴、学生自身が記入したキャリア設計への抱負、それに対するゼミ教員やアドバイザーのコメントなどが格納されます。このCASKを介して学生と教職員が対話しながら、キャリア形成を進めていけるよう設計されています。学生にとって、これらの学内の情報資源を、ICTを駆使しフルに活用する事ができて初めて、実りあるキャンパスライフを送ることができるようになる、そんなキャンパスの将来像を我々は『徳山大学サイバーキャンパス』と呼んでいます。そしてその実現に向けた一歩を、今年度、踏み出したのです。

今後、このキャンパス環境の整備をさらに進めるとともに、「専門教育で得た知識を活かして地域社会の活性化に資する能力、コンピテンシー、を育成する」新しい教育メカニズムを、地域との連携のもとに考案・構築し、学内に定着させていくことが、われわれに課された任務であると考えています。



岡野 啓介 新学長

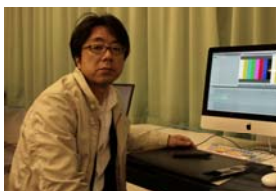
- 任期 平成22年4月1日～平成26年3月31日
- 大阪府出身 ■専門分野 理論物理学・情報教育
- 略歴

早稲田大学大学院・理工学研究科博士課程修了（理学博士）
 1982年 早稲田大学理工学部・物理学科・助手（1985年まで）
 1985年 西独ジーゲン大学・物理学科・助手（1990年まで）
 1990年 徳山大学着任（助教授）1999年 徳山大学教授
 1997年 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校・客員研究員
 2005年 経済学部長就任（現在に至る）



石井 拓（経済学部准教授）

宮城県生まれ。専門は行動分析学、実験心理学。慶應義塾大学大学院社会学研究科後期博士課程単位修得修了（博士（心理学））。行動マネジメント、意思決定科学などの授業を担当。「卒業後も役立つように、EQトレーニングをより良いものにしていきたい」と思っています。



長澤 雅彦（経済学部教授）

秋田県生まれ。専門はメディアデザイン。早稲田大学政治経済学部卒業後、映画プロデューサー、脚本家、監督を務める。メディア開発実習、シナリオ論などの授業を担当。「皆さんと積極的にコミュニケーションを取りながら、『こういうことを教えて欲しい』ということときどき言ってきた欲しい」と思っています。



石川 英樹（経済学部教授）

山口県生まれ。専門は経済政策。一橋大学を卒業後、三和銀行、国民経済研究協会、長岡大学に勤務。経済学、経済政策などの授業を担当。「学生の皆さんの将来づくりのサポートに全力で取り組みます。」

新任教員紹介

今春着任の、6人の教員をご紹介します。



梅野 潤子（福祉情報学部助教）

岡山県生まれ。専門は児童ソーシャルワーカー。明治学院大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士前期課程修了（修士（社会福祉学））。相談援助の理論と方法などの授業を担当。「その人がその人らしく、いきいきと暮らすための社会的な支援の方法について、ともに学んでいきましょう。」



赤岡 広周（経済学部講師）

京都府生まれ。専門は経営組織、危機管理。北海道大学大学院経済学研究科修士課程修了（博士（経営学））。経営組織論、スポーツマネジメントなどの授業を担当。「日常生活に活用できる経営学を心掛けています。」



木村 眞実（経済学部准教授）

静岡県生まれ。専門は会計学（環境会計）九州大学大学院経済学府経済システム専攻博士後期課程単位取得修了（修士（経済学））。簿記原理、会計学原理などの授業を担当。「皆さんは、売上高と利益の違いがわかりますか？私の担当科目の『簿記原理』で、一緒に、利益の計算について勉強しましょう！」



2010
4月
学内風景



今春は寒い日が続き、桜も咲いていいのか、どうなのか、迷うほどの日々でした。学内には、山桜や、ソメイヨシノ、ヤエザクラ、ボタンザクラなど約300本の桜が、見事に咲き、私たちも、とても心をなごまされました。



現代経済学科1年 原田さん木村さん

夏のオープンキャンパス

7月17日(土)
8月8日(土)&9日(日)
9月18日(土) 各日:11:00~15:30



本学のオープンキャンパスは、在学生在が運営するユニークな見学会です。



ぜひ、この夏
徳山大学に
お越しください。
お待ちしております！



高次連携・出張授業
EQトレーニング 徳山商工で実施

4月14日山口県立徳山商工高等学校の2年生全員を対象に、EQトレーニングの出張授業が徳山商工体育館で行われました。この授業は、齊藤由里恵准教授の指導のもと、本学学生15名が補助学生として加わり実施されました。高校生には初めての経験であり最初とまどいもあったようですが、徐々に、学生のリードに慣れてゆき、充実した授業となりました。また、補助本学学生とつても、貴重な経験となりました。本学では今後も高大連携の一環として、出張講義を続けて参ります。

